

外国語科学習指導案

日 時 令和4年11月18日(金)
第4校時 11:50~12:40
対 象 2年C組 (38名)
場 所 本校2年C組教室

1 単元名

“How Good Is Your Memory?”

教科書：“Revised BIG DIPPER English Communication II”

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

本文の内容を踏まえ、自分が実践したい記憶法についてJTEやALTとやりとりすることができる。

(2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>【知識】 ・関係詞代名詞 what と関係副詞 why をやりとりの中で適切に使用している。[話す力(やりとり)]</p> <p>【技能】 ・教師の質問に即興で解答することができる。[話す力(やりとり)]</p>	<p>・記憶法について周囲から情報を集め、それらを踏まえて自分が実践したい記憶法について根拠をもって述べることができる。 [話す力(やりとり)]</p>	<p>・質問に積極的に答えしており、かつ相手の発言に対してリアクションをしようとしている。[話す力(やりとり)]</p>

3 指導にあたって

(1) 教材観

アカデミックな分野から身近な話題が幅広く網羅された教材であり、単元に合わせて多様な言語活動が設定できる可能性を秘めている。コンテンツについては「読む」能力にフォーカスされているため、4技能のバランスについて考慮し、現在は独自にハンドアウトを作成し、指導している。

文章の難易度は中程度である。単語数が少ないため、習熟度の高い生徒にとってはすぐに読解が終わり、学力の伸長という観点では別途レベルの高い教材を与える必要がある。しかし、集団全体に対する指導という観点では中庸をとっており、本校の実状に合致している。

(2) 生徒観

本校は所謂進路多様校であり、偏差値帯は38~60以上と幅広い。そのため、入学当初より大学進学を見据えた生徒層へのハイレベルな指導と、中学校段階の学習内容が定着していない生徒層に対する学び直しの指導という二律背反の方向性を両立させる必要がある。

また、本校2年次生徒全体に共通していることは、こと英語に関しては知識の「習得」に終始していることである。そのため、今後の学習を通して知識の「活用」にシフトしていく必要がある。しかしながら、非常に素直な性格の生徒が多く、言語活動そのものは全員が積極的に取り組むことができる。

(3) 指導観

前項(2)で述べたように本校生徒は学力の幅が大きいため、指導のレベルについては習熟度の低い生徒に対する「学力の底上げ」に焦点を当てている。また、成績上位層についても、グループワークを行った際に Student Teacher として役割を与えることで、理解の深化を図っている。

一方で、思考・判断・表現の領域については課題があり、言語活動においては指示された事柄については主体的に実行できるが、特に「判断・表現」の部分で困難を抱えている生徒が多い。そのため、2年次後期からはリテリング等の活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

4 単元の指導と評価の計画 (計 14 時間)

時間	ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
1 (1)	<p>■これまでに自分が実践した記憶法について考察する。</p> <p>①これまでに実践した記憶法を書き出す。</p> <p>②グループで記憶法の効果について発表し合う。</p>			○	本単元のルーブリックを提示し、目標の共有を行う。
9 (2) 10	<p>■読解を通して効果の高い記憶法について理解する。</p> <p>① ペアで身近な話題について、短いやりとりを行う。 【帯活動】</p> <p>② 本文を読解する。</p> <p>③ ディクテーションを行い、結果を確認する。</p> <p>④ リテリング活動を行う。</p> <p>Part. 1 - Part. 4 の読解については1パートあたり2時間を目途として、進める。(1単位時間)</p>	○			リテリング活動の振り返りを行い、評価する。
4 (11) 14	<p>■教師と記憶法に関するやりとりを行う。</p> <p>①スマートフォン等を用いて、教科書以外の記憶法について調べ、ペアで1~2分程度の紹介動画を作成する。</p> <p>②各自で動画を視聴し、各記憶法の特徴についてノートテイキングを行う。</p> <p>③「自分が実践したい記憶法」についてまとめる。</p> <p>④インタビューテストを行い、やりとりについて評価を行う。</p>		○		・作成した動画を各自が一覧で見られるようにLINEを使用する。

5 パフォーマンステストの実施計画

領域	■ 話すこと [やり取り] □ 話すこと [発表] □ 書くこと
関連する Can-Do リスト	第2学年 日常的な話題について、質問に答えたり、自身の考えや気持ちを話し合ったりすることができる。
実施内容	本文の内容を踏まえ、「自分が実践したいと思う記憶法」について、JTE または ALT とやりとりを行う。
実施方法	<p>実施方法</p> <p>1. 「自分が実践したいと思う記憶法」について教師に対して述べる。</p> <p>2. 教師が質問を行い、それに返答する</p>

■ 採点の基準

○「知識・技能」についての3つの条件

条件1：教師からの質問に対して適切に返答した。

条件2：関係代名詞 what を適切に用いて自分の意見を述べた。

条件3：関係副詞 why を用いて理由や根拠を述べた。

○「思考・判断・表現」についての3つの条件

条件1：記憶法について資料を用いて分かりやすく説明した。

条件2：自分が実践したい記憶法について、それを選択した根拠を述べた。

条件3：自分が実践したい記憶法について、その方法論を簡潔に述べた。

○「主体的に学習に取り組む態度」についての3つの条件

条件1：10秒以上の沈黙がなかった。

条件2：主体的に発言した。

条件3：発言に対して相づちを打つなどのリアクションをしている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・全ての条件を満たしている。	・全ての条件を満たしている。	・全ての条件を満たしている。
b	・2つの条件を満たしている。	・2つの条件を満たしている。	・2つの条件を満たしている。
c	・0～1つの条件を満たしている。	・0～1つの条件を満たしている。	・0～1つの条件を満たしている。

6 本時の展開 (13/14 時間目)

(1) ねらい

- ・本文の内容を踏まえ、自分が実践したい記憶法について JTE や ALT とやりとりすることができる。

(2) 展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	帯活動	ペアになり、身近な話題について短いやりとりを行う。	ペアワーク終了後、2名程度を指し、即興でのやりとりが出来ているか確認する。
展開	【ねらい】動画を視聴することで情報を収集し、ワークシートにまとめる。		
	ノートテイキング	・事前に他のペアが作成した動画を視聴し、ワークシートにメモを取る。	次の授業では「自分が実践したい記憶法」について JTE または ALT とのやりとりを評価する場面があるので、他者の発表はメモを取りながら聞くよう指導する。
	【ねらい】集めた情報をもとに個人で「実践したい記憶法」を選出し、それについてまとめる。また、ペアで質問をしあうことで次回のパフォーマンステストについて演習を行う。		
	情報の整理	・メモの情報をもとに、「実践したい記憶法」を選び、その記憶法の概要や選出の根拠を考える。	・ループリックを再提示し、パフォーマンステストに対する見通しを立てる。
まとめ	ペアワーク 次回の予告	・予め用意された質問に則ってペアで質疑応答を行う。	・適宜机間巡視を行う。